

社会新報個人版

岩手県北上市議会議員

佐藤ケイ子

活動報告

No.12



# いきいき通信

発行所/社会民主党全国連合機関紙宣伝局

東京都千代田区永田町1-8-1

佐藤ケイ子後援会 岩手県北上市下江釣子 16-154-3 (0197-77-2126)

**この1年間** 昨年の夏は参議院選挙があり、私たちが推薦した社民党の「吉田ただとも」候補は辛くも当選。秋～冬は久保県議の再選に向け取り組んできました。

いよいよ告示3週間を前にして、3月11日の大地震。選挙も延期され、生活も一変しました。



**3月11日以降** 大震災では停電とガソリン不足。沿岸には比べられないものの、北上市内でも道路橋りょう、体育施設、公民館施設、個人宅でも大きな被害があり、容赦ない自然のエネルギーをマザマザと感じさせられました。

普通の生活がどれほど幸せなことが再認識しながら、救援物資を集め沿岸に届けたり、カンパ活動を行ったり、募金など取り組んできました。

沿岸部の復興は、まだまだこれからです。今後も長期間の支援をしていかなければなりません。

**議会** 昨年の夏以降、「経営改革」として、税率アップや使用料の見直し、施設地域移管など多くの課題が示されました。

**22年9月議会** 夏油高原スキー場への補助金約2000万円に対し、補助金を削除する修正案を6人で提案しました。スキー場は、全国的に経営困難な状況であり、当面の継続だけではなく根本的な活用のあり方を検討し具体化する時代になっています。

**22年12月議会** 固定資産税のアップについて、私は、当初から県内一高い税率には反対であり、説明責任を果たすため、一年間の延期を主張していました。

このままでは、否決もやむを得ないと思っていましたが、県内他市並みに引き下げでの提案で驚きました。さらに私は、実施年度を遅らせても改革推進債の許可が出るよう、県への要請を提言し、結果、県も承諾し、修正案提案となりました。

税率アップは誰でも困りますが、土地開発公社清算にかかる改革推進債許可のタイミングを逃されないため、ギリギリの選択でした。

また、地区交流センター使用料条例が提案されましたが、本来の目的である地域活動の促進や、交流センターとの調整不足などを指摘し反対しました。現在、多くの不満が出ており、見直しに向けて取り組んで生きたいものです。

**23年3月議会** 伊藤市長の最後の議会。市長選のため骨格予算となっているものの、社会保障関係費や公債費負担が大きくなり、5.3%の伸びの321億円(特別会計

も合計すると485億円)の予算となりました。代表質問では、新市長の政策財源枠も質問しましたが、大変厳しいと曖昧な答弁。その後大地震で、震災対応に追われました。

**23年6月議会** 新市長の施政方針演説を受けて、政策評価システム、震災対応、経営改革継続の問題、夏油高原スキー場の対応など、新市長の答弁が注目されました。

補正予算には、夏油高原国有林野借上げ約960万円が計上されており、昨年9月議会の経過もあり、質疑が集中しました。

スキー場を岩手南部森林管理署から市が借り受けることにより約半額となり、夏油高原開発に無償貸与するというもの。市はスキー場施設を所有しており、最終的には山の回復義務を持っているので、土地にも責任がありますが、スキー客減少の時代に今後も運営のあり方が課題となります。

副市長人事について、今回から起立採決することになり、副市長の職務について質疑しました。特に第三セクター問題専任の任用が、副市長の職責として妥当なのか、本来任務のあり方など質疑しました。副市長個人については、識見・経験等敬服ですが、三セク処理特化に対し、積極的な賛成はできず採決時には退席しました。

この件について、賛否双方のご意見を頂いています。

暑氣払いにみんなで 生ビールを飲もう!  
毎年好評の **佐藤ケイ子を囲む**  
**納涼パーティー**のご案内

とき **7月22日(金) 午後6時30分**

ところ **江釣子地区交流センター(大ホール)**

会費 **男性 2,000円・女性 1,000円**

～歌・踊・抽選会あり・とび入り歓迎～

誰でも入場できます。お誘いあわせの上ご参加願います。

総会は、午後6時～です。



## この1年間の一般質問

正しい情報の共有から、市民との協働を！



スペースの関係で質問項目のみ紹介します。

### 平成22年9月議会

#### 1.「経営改革」の課題

- ・固定資産税の税率アップは、説明責任を尽くし、1年間の延期を。
- ・地元移管対象の体育施設は、単独の行政区だけで使用しているものではない。屋根やフローア一等大型の支出が見込まれる中で、移管するべきではない。

#### 2.保育の充実について

- ①保育施設——北上は無認可保育所の数が特段に多く、保育所が不足している。市街地の保育所整備、黒沢尻保育園などの改築計画で定員増を図るべき。
- ②保育士——公立幼稚園・保育園における臨時、非常勤職員が多く、クラス担任もあるので改善を。園長、副園長は、専門職としての能力を活用させるべきであり、各園での財務事務改善を。
- ③保育料——近隣の市に比較すると、どの所得階層でも保育料が高い。軽減率の見直しを。

### 平成22年12月議会

#### 1.行政評価について

事務事業評価が予算編成に連動せず、事務の負担感が大きい。評価対称事業をしぼるべきではないか。決算審査と連動して、外部評価の検討を。

#### 2.みちのく芸能まつりについて

- ・インターハイとまつりの日程重複があるが、宿泊施設の調整は大丈夫か。



- ・第50回記念の特徴的な計画はあるか。51回以降について、どのような構想(日程・場所・市民パレードのあり方)を持っているのか。

#### 3.学校給食について

- ①望ましい学校給食——学校給食法が改定され、食育の推進、食の文化伝統、生産流通などの理解も目標に加えられている。「生きた教材」を活用する意味でも、地場産品の活用拡大を。
- ②地場産品活用——地場産を食材ベースで、全

国平均21%(2004年度)から30%(2010年度)まで増やすべき。市内3ヶ所の給食センターは大型のため、地場産品活用に限界があるのではないか。

③中央給食センター——施設の維持管理や建設計画は。

④一食炊飯——中央・北部給食センターの一食炊飯は、食味、委託費などの課題があり、10年前に指摘している。自校炊飯の導入事例を検討すべき。

### 平成23年3月議会

#### 1.持続可能な行財政運営について

- ①政府予算の対応
  - ・「市民公益税制」への対応について
  - ・子ども手当の地方負担について

#### ②経営改革の課題

- ・新市長の政策予算の留保財源は。
- ・公契約条例で官制ワーキングプアの防止を。
- ・税率アップに対し、周知や説明のあり方の工夫を。

#### 2.子育て支援について

- ①保育園・幼稚園整備計画を示せ——23年度に市街地北部地区に民間保育所を設置し、24年度から開園の見込みである。黒沢尻保育園は、24年度新築で定員増を図る。
- ②企業による子育て支援の奨励を——ファミリーフレンドリー企業の表彰制度や、市独自の表彰制度を設けるべきではないか。
- ③子ども条例策定を——子どもの権利を守り健やかに育てる意識や環境づくりは、北上の将来をも決定するものとなるのでは。

#### 3.地域医療について

済生会病院は、救急や周産期・小児医療など中核的な病院である。準市民病院と位置づけ、継続的な支援を。

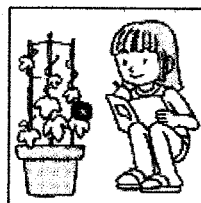
#### 4.産業・雇用の課題について

- ①緊急雇用対策事業は3年目をむかえるが、成果と課題は。新年度の計画の特徴は。
- ②21年度からコンベンション事業の調査を行なっているが、設立の見通しは。

#### 5.教育環境について

- ①教職員安全衛生委員会——学校ごとの安全衛生委員会設置と職場訪問をすべきではないか。
- ②学校統合までの施設管理——統合までに時間が要するが、危険校舎で放置できない状況である。緊急避難的に補修に取り組むべき。

- ③中央学校給食センター——コスト優先ではなく直営での施設整備で地産地消を。



## 活動あれこれ

ブログつまみぐい

### 9月28日岩手県婦人大会(八幡平市)



NPO 法人岩手県地域婦人団体協議会の大会があり、県内から1000人近い女性たちが安比高原に集まりました。

「私たちの婦人会活動」として3人が発表。私は「北上市のごみ有料化と私たちのごみ減量」を発表

し、有料化だけでは改善しないごみ減量、有料化前の意見反映、有料化後も継続した意識化、団体が声をかけあい意識啓発を…という趣旨で発表しました。

### 2月10日から議会報告会



2月10日から江釣子6区、江釣子5区、江釣子3区で県政市政報告会を行いました。

固定資産税のアップ問題と開発公社精算の関係、地域移管施設や学童保育所の補正予算の中身などを説明しました。

久保県議は、知事の政治姿勢の問題、TPP問題、高校再編や県立病院の無床化問題などを話していました。

参加者からは、施設の地域移管の不满、福祉や農業施策、財政問題などの質疑があり、貴重な意見交換でした。

### 3月21日救援物資を大船渡へ搬送、被害を実感!

3月21日、社民党北上総支部として救援物資を積み、大船渡へ行ってきました。前日の昼に大船渡の平田市議の消息が判明し、平田宅に避難している人たちに救援物資が必要ということで、急きょ物資提供を呼びかけ、半日で食糧品、灯油、水、カセットコンロやボンベ、衛生用品、下着…たくさんの物資が集まりました。

現地の避難所には物資が届くものの、個人の避難所には届かないこと、ガソリンが無い事の問題を訴えていました。平田さんは、自宅と公民館で被災者支援活動をしていました。

帰りは陸前高田を廻ってきましたが、美しかった高田松原や市街地の面影はなく、テレビで見る以上に被害が甚大で言葉もありませんでした。

今後はカンパ活動など長期的な支援に取り組んでいきます。

### 4月2日学童保育所入所式

江釣子学童保育所の入所式は、地震の影響で一週間遅れでの開催でした。

12年前に江釣子神社社務所を間借りして立ち上げた時は、30人弱で細々と開所しましたが、保護者や指導員の熱意があふれていました。

その後毎年児童が増え、ここ数年は110数人となり、数年前には隣接して二階建てのプレハブも建ちました。今は国の補助制度が変わったため、二つのクラブに分割し、「ひまわりクラブ」と「おひさまクラブ」として運営しています。

このたび1月臨時議会で2600万円の補正がつき、「ひまわりクラブ」は小学校敷地内に移転建設されることとなります。(繰越明許で23年度事業)江釣子学童は、小学校の敷地と江釣子神社の敷地に分かれるものの、保護者たちの願いも少しずつ確実に実現している状況です。開所に関わったものとしては、感慨深い入所式でした。



### 5月11日「市民と議会をつなぐ会」

議員が4班体制で、16地区交流センターを4日間で意見交換を行うもので、昨年秋に続き2回目となります。

地震対応不備や、敬老会補助金の確保、財政問題、学校評価の件、駅前駐車場の件、有線テレビ合併の件、遊休公共施設の件など多くの意見を頂きました。

どの会場も参加者が少なく、皆さんに参加してもらうのは大変なことです。



### 6月30日 脱原発学習会

6月30日は、久保孝喜県議が「私たちの知らない原発」と題して講演を行ないました。

今回の東電福島原発の事故とチェルノブイリを比較し、深刻な状況でありながら正しい報道がないこと、政治の怠慢と経済界の癒着、隠されたコスト問題、ウソの電力受給率など話されました。

講演の後での懇親会では、寸劇や余興もありました。



## みなさんの参加をお願いします

「結の風らぷそでい」北上公演を成功させる 100 人委員会

### 「結の風らぷそでい」

日時 7月23日(木)  
場所 さくらホール(大ホール)  
前売券 大人 3,000 円 (当日券 3,500 円)

現代社会が抱える「食と農」を切り口にした社会派人情喜劇。農地解放から現在の農業問題を振り返り、食料自給率や TPP 問題にも迫ります。

口内町出身の昆野美和子さんの演技にも注目です。

北上市地域婦人団体協議会設立 20 周年記念大会

### 文化講演会 & コンサート

日時 7月30日(土) 午後 1 時 30 分～  
場所 さくらホール(中ホール)

入場料無料・整理券が必要ですよ

オープニング コーラス(市婦協コーラス隊)  
記念講演 中津攸子先生 (歴史作家・北上しらゆり大使)  
「光は東北から・北上から」  
～地域の文化をささえた女性たち～

きよみコンサート

～ふるさとの母に贈るうた～  
(マンドリンシンガー・北上市出身)

第 2 部(16:30) 記念式典  
第 3 部(18:00) 記念祝賀会



おすすめ映画鑑賞

### 婦人会映画会「大地の詩」

～留岡幸助ものがたり～  
平成 23 年度児童福祉文化賞受賞

私立児童自立支援施設「北海道家庭学校」を創設した社会福祉事業家の留岡幸助は、「不良少年更生の父」と呼ばれている。その留岡幸助の半生を描く物語。

出演：村上弘明(陸前高田市出身)、工藤夕貴ほか  
村上弘明さんは、「この映画が応援歌になることを祈っています」とメッセージを寄せています。

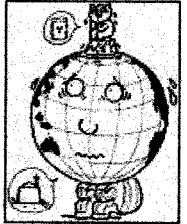
期日 10月10日(月)(祝日)  
場所 さくらホール(大ホール)  
詳細検討中

8月20日(土)

北上商工会議所において  
県議選の総決起集会を行う予定です。  
詳細は企画中

## 脱原発・自然エネルギーへの転換を

社民党脱原発アクションプログラムに、詳しい数字が掲載されています。抜粋紹介。



**安全神話崩壊** 3月11日の東日本大震災により、東京電力福島第一原発は全交流電源喪失。1号機、2号機、3号機すべての燃料が溶け落ち、メルトダウン。大量の放射性物質が放出され、人々の健康、農業、酪農、漁業などに影響を及ぼし、日々の営みを壊してしまいました。史上最悪と言われたチェルノブイリ事故と同じ「レベル 7」と評価され、今なお収束の見通しがつきません。

今までの「絶対安全」「多重防護」は何だったのでしょうか。さらに、今後 10 万年も放射性物質を守っていくなんてできるのでしょうか。

### 原子カムラがエネルギー政策をゆがめてきた

原発推進と規制は経済産業省にあり、行政・研究機関・メーカー・電力会社・関連企業によって「原子カムラ」を形成。批判を受け付けない体制。

### 巨額の資金が自治体の自立を妨げる

電源三法や固定資産税など巨額の資金が自治体に。ハコモノを作らせ、維持費が財政を圧迫。原発増設で悪循環へ。

### 行き詰まりの「核のゴミ」問題

54 基の原子炉から毎年 1000 トンの使用済み核燃料が生じる。青森県六ヶ所村再処理工場は満杯状態。

### 破綻した核燃料サイクル計画

使用済み核燃料を再処理し、プルトニウムやウランを回収し使用する計画は、実用化されていない。福井県の「もんじゅ」は事故を起こし、再開のめど立たず。

### 迫る地震・津波の危険

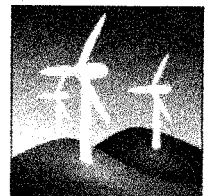
4 枚のプレートといたるところに活断層がある日本列島。原発の耐震基準や津波対策の不備が露呈。

### 被爆労働なしに原発は動かない

核廃棄物処理運搬、パイプ配管補修、スラッジ(ヒドロ)かき出しなど 300 種以上の仕事は、下請け労働者。最新鋭のコンピューターで動いていると勘違いしているが、手作業なくして動かない原発。

### 発電コストのウソ

今まで、使用済み核燃料処分や再処理費用、電源三法交付金などの巨額費用を含まず計算。原子力発電は低コストではないことが明白。



### 電力不足のウソ

電力需要がひっ迫するのは、1 年間で 10 時間分だけ。しかもピーク時電力の 9 割は産業需要。大口需要家との調整で停電は避けられる。

### 世界は脱原発へ

ヨーロッパを中心に脱原発は国際的な流れ。

### 東北を自然エネルギー基地に

東北は、太陽光、風力、水力、バイオマス、地熱など自然エネルギーの宝庫。復興の柱として、自然エネルギーの促進をはかる。促進のためには、スマートグリッド網の普及(地域分散型の小規模電源を管理分配)、自然エネルギー全量買取制度の強化、発送電の分離を。